沖縄県立看護大学紀要第８号(2007年３月)

資料

地域保健看護実習方法の改善への課題

―沖縄県立看護大学における平成17年度の実績から―

渡辺昌子[1)]　牧内忍[1)]　川崎道子[1)]　宮地文子[1)]

要　約

本学地域保健看護実習におけるより効果的な実習指導方法を探ることを目的として、平成17年度地域保健看護実習内容を、本学シラバス、実習要項、学生の地域保健看護実習記録、担当教員による学生の実習評価から分析し、今後の改善点を検討した。

地域保健看護講義科目は実習以外の時期に段階的、集中的に開講し、地域保健看護実習は講義を終了した4年次に実施した。地域保健看護実習のうち、保健所実習では保健所保健師の役割・業務の理解を、市町村実習では保健指導技術の習得を重視した実習プログラムとした。

実習記録における「学生の学び」の分析から、各実習目標の達成度を見ると、学生が実際に見学あるいは実践を通して経験した項目は具体的な理解が得やすく、逆に実際に経験する機会が少ない項目および体験の認識度が低い項目の達成度が低かった。また、学生と教員の実習評価においても、学びの分析と同様、実際に経験する機会が少ない項目に関して評価が低い傾向がみられた。

これらの結果、実習場所の確保、実習内容の精選と実習方法の検討、学生の地域保健看護への関心を引き出す関わり方、本学のカリキュラム改善に関する課題が明らかとなった。

Key words：地域看護実習、地域看護教育、実習指導、実習評価

Ⅰ　はじめに

近年、わが国の大学看護基礎教育における地域看護学教育に関して、従来の保健師一年課程教育の中で継承されてきた保健師に求められる専門的技術の伝達が困難な状況が指摘され[1~4)]、地域看護実習のあり方をめぐる活発な議論がある[5~10)]。開学７年目の本学地域保健看護実習は前身校の実習の長所を取り入れて実習内容の充実を図ってきたが、より効果的な実習指導方法を探る目的で、平成17年７月～11月に実施した本学地域保健看護実習内容（目的、目標、実習プログラム）を、①地域保健看護講義科目のシラバス、②教員の実習指導体制、③学生の学習内容、④学生と教員の評価 について分析し、今後の改善点を検討した。

Ⅱ　研究方法

１．分析対象

１）「沖縄県立看護大学シラバス2005」における地域保健看護概論、地域保健看護方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、島しょ保健看護論のシラバス

２）「沖縄県立看護大学地域保健看護実習（福祉保健所・市町村）実習の手引き2005」（以下「実習の手引き」とする。）

３）平成17年度本学４年次学生78名のうち、研究協力に同意が得られた77名の地域保健看護実習記録 ①家庭訪問記録における事例の種別および健康教育のテーマ、②レポート「地域保健看護実習で学んだこと」（Ａ４版1枚、保健所実習および市町村実習各１部）、③実習自己評価表（保健所実習および市町村実習各１部）

４）実習担当教員による学生77名の実習評価（保健所実習および市町村実習各１部）

２．方法

１）「沖縄県立看護大学シラバス2005」における地域保健看護概論、地域保健看護方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、島しょ保健看護論のシラバスに示した教育目標と「実習の手引き」における実習目的、実習目標、プログラムの設定の関係性を検討した。

２）教員の年間の実習指導関連業務を「実習の手引き」に基づいて分析した。

３）市町村実習で学生が実施した家庭訪問事例の種別と健康教育のテーマを、学生の家庭訪問記録および健

１）沖縄県立看護大学

康教育記録から抽出・分類した。分類方法は、厚生労働省衛生行政報告における分類に準じた。

4）学生の学びの内容を、レポート「地域保健看護実習で学んだこと」の記述のうち実習において学習した内容について抽出し、実習目標に基づいて分類した。

5）学生と教員の実習評価は、実習自己評価表の評価項目、すなわち福祉保健所実習は ① 福祉保健所の役割・組織・業務、②保健所保健師の役割、業務、③地域ケアシステム、④実習態度、⑤提出物の期限、⑥出席状況 の６項目、市町村実習は ①市町村の特徴と保健福祉行政、②個人・家族・地域の健康問題の解決、健康増進に向けたヘルスケアの提供方法、③健康問題の解決やQOL向上をめざした住民の主体的活動、④ヘルスケアの質の充実・向上をはかるための関係機関等との連携のありかた、⑤看護の役割・機能、⑥提出物の期限、⑦出席状況 の７項目のうち実習目標として示した福祉保健所実習は①～③の３項目、市町村実習は①～⑤の５項目について、学生と担当教員が別々に評価した。評価尺度は、とても良くできた（５点）、良くできた（４点）、普通（３点）、 あまり良くできなかった（２点）、できなかった（１点）の５段階とした。

3．倫理的配慮

当該学生に対し、教育に示唆を得るために実習記録を本報告に使用することを説明し、書面による同意を得た。分析にあたっては内容をコード化し、プライバシーの保護に配慮し、個人が特定できないようにした。

Ⅲ　結果

1．本学地域保健看護講義科目と実習内容

本学看護専門科目における地域保健看護の講義は、２年次後期から４年次前期にかけて段階的に配置し、基礎・小児・母性・成人・老年・精神保健看護実習がない時期に集中的に開講した（表１）。

地域保健看護実習は、これら地域保健看護の講義を終了した４年次に、県内５福祉保健所における実習（以下、福祉保健所実習）と、28市町村保健センターおよび保健担当部署における実習（以下、市町村実習）で構成した（表２）。

実習目的は、地域保健看護概論、地域保健看護方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、島しょ保健看護論シラバスに示した教育目標を網羅して福祉保健所実習と市町村実習で共通に示し、実習目標は、福祉保健所実習と市町村実習毎に、二次医療圏または一次医療圏レベルの地域保健を担う役割の位置

表１　本学地域保健看護講義科目（平成17年度）

講義科目	開講年次	選択必修	単位数	時間数	教育目標
地域保健看護概論	２年次後期	必修	1	15	個人・家族・集団を対象にする地域保健看護活動の目的と成り立ちを学ぶ。 地域保健看護の発展と課題を学ぶ。
地域保健看護方法Ⅰ	３年次前期	必修	1	30	地域保健看護活動を方向付ける保健医療福祉の法規・政策について学ぶ。 地方自治体の施策における保健福祉計画・保健師活動計画の位置づけを学ぶ。 保健事業を駆使して地域の健康問題を改善する保健師の実践方法を学ぶ。
地域保健看護方法Ⅱ	３年次後期	必修	2	30	地域のヘルスケアシステムを充実させる地域保健看護の方法を学ぶ。 地区のアセスメントと地域保健計画・評価について学ぶ。 地域ケアシステムとケアコーディネーション、住民主体の保健活動、危機管理 産業保健と地域保健看護活動の方法を学ぶ。
地域保健看護方法Ⅲ	４年次前期	必修	2	45	個人・家族支援の意義を理解し、問題解決に向けた家族診断理論を学習する。 個人・家族および集団の支援方法として家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査 地域リハビリテーションの知識と技術を学ぶ。
島しょ保健看護論	４年次前期	選択	1	30	島しょの定義・特徴を理解し、島嶼の人々の生活環境・健康管理のあり方を概観する。 島しょの人々の健康問題解決に向けた看護の役割を学ぶ。

表２本学地域保健看護実習の内容と指導体制（平成17年度）

	福祉保健所	市町村
実習時期・期間	４年次前期７月５日間	４年次後期 10～11月９日間
実施施設	沖縄県内4福祉保健所	沖縄県内28市町村（離島含む）
実習担当教員数	４名	４名(うち、１名は実習総括)
教員指導体制	教員１名あたり（１施設、学生10名）×２クール	（７～11市町村、学生23～31名、事例検討会５～７回）×２クール
実習施設の窓口	保健部門班長	指導保健師
教員と指導保健師の役割分担	現場における保健看護業務の指導については指導保健師に一任し講義内容との照合、記録のまとめ方、レポートの書き方などは担当教員が指導する。	
実習目的	地域における多様なヘルスニーズを持つ個人・家族、集団に対する保健指導の方法を習得する。また、地域のケアシステムを活用して健康問題を解決する方法を学習する。	
実習目標	１．福祉保健所の役割、組織、業務の理解 ２．保健所保健師の役割、業務の理解 ３．保健医療福祉の向上に向けた地域ケア体制の理解	１．市町村の特徴と保健福祉行政の理解 ２．個人・家族および地域の健康問題の解決健康増進に向けたヘルスケアの提供方法の理解 ３．健康問題の解決やＱＯＬの向上をめざした住民の主体的活動の理解 ４．ヘルスケアの充実、質向上を図るための関係機関との連携のあり方の理解 ５．市町村保健福祉行政の役割および看護の役割、機能の理解
プログラム	事前学習: 福祉保健所の概要（福祉保健所要覧、インターネットなど） 第１日: 福祉保健所の役割と組織 （保健師、課長、他担当者） １）福祉保健所の概要 ２）管内の地域特性および健康問題 ３）管内市町村への支援 第２～３日: 福祉保健所の業務 １)個別・集団支援（申請・相談事業、教室など） ２)地域ケアシステム （組織育成、関係機関との連携） 第４日: 実習報告会（半日程度） 第５日: 学内報告会（グループワーク・発表・レポート）	事前学習: 地域特性、保健福祉計画の把握（市町村概況、インターネットなど） 健康教育準備など 第１日: 市町村保健センター（保健部門）の組織と業務 第２～７日: 保健事業の参加学習 １)家庭訪問（原則１事例を１回以上、同伴訪問） ２)事例検討会（２～４市町村合同） ３)健康教育の計画、実施、評価 ４)健康診査、健康相談 ５)機能訓練その他保健福祉サービス ６)地区組織活動、自主グループ ７)他職種との連携（会議など） 第８日: 実習報告会（半日程度） 第９日: 学内報告会（グループワーク・発表・レポート）

づけ、組織、保健師の役割と業務、ケア提供方法を理解することとした。

実習プログラムは、福祉保健所実習では二次医療圏レベルで地域の健康問題を解決する福祉保健所保健師の役割・業務と市町村・病院・事業所・学校等関連機関の看護職等との連携の実態を理解することを重視した。市町村実習では、福祉保健所実習より実習期間が長く、学生が保健事業に参加する機会が多いことから、保健師の保健指導技術の習得を重視した。

各学生に対しては、実習の手引きにてらして、各福祉保健所・市町村の事業計画の中から実習施設の特長ある取り組みや学生に学ばせたい保健事業を実習指導者と担当教員が選定し、その指導方法について両者で協議した。

２．教員の実習指導体制

教員が年間を通して従事する実習関連業務、すなわち

学生指導、施設との調整、企画・管理等を図１に示した。本学地域保健看護実習は、集中した時期に多数の実習施設で実施するため、実習目標を達成する上でこれらの業務を丁寧に行うことが不可欠であった。

実習前準備で最大の課題は実習施設の確保であった。現在、県内の２大学、４看護専門学校間で「県内地域看護実習調整連絡会」を設け、年間の実習スケジュールを調整しているが、この調整は年々難航する傾向にある。その理由は、市町村合併や人員削減、介護保険制度等に伴う保健師配置の多様化等により、実習可能な市町村数と受け入れ学生数がともに減少しているためである。

学生受け入れが決まった施設の学生配置は学生同士の話し合いで決定しているが、実習施設が離島を含む県内全域にわたるため、学生は各自の車等による移動や宿泊が必要になる。教員は交通手段や宿泊等の情報を学生が共有して納得した決定ができるようにサポートした。

教員は、福祉保健所実習では４名で施設を分担し、市町村実習では３名が施設を分担し、１名が各施設の事例検討会に出席する方針で学生指導を担当した。各福祉保健所と市町村への事前説明は施設ごとに担当教員が出向き、実習指導者と実習目的や目標、実習内容とその指導方法等について詳細な打ち合わせを行った。実習期間中は実習施設における巡回指導、巡回できない学生に対する遠隔指導（E-mail や FAX、電話を活用）、実習前後の学生に対する学内指導の３つを同時期に並行して実施した。

３．実習プログラムの展開

１）実習プログラムの展開

（１）福祉保健所実習プログラム：福祉保健所実習では、保健所業務を分担している各班担当者（主として保健師）による業務説明と保健師業務の見学をさせた。保健所が住民の健康問題の解決に向けて取り組んでいる活動事例から保健師による他職種・他機関との連携のあり方を学ばせた。

（２）市町村実習プログラム：市町村実習では学生自ら実践する実習プログラムが多く、特に家庭訪問、健康教育に力を入れた。家庭訪問は、保健師活動の中で優先度の高いケースのうちから１事例を、保健師の同伴で最低１回以上、可能であれば継続して訪問させた。事例検討会は、２～４市町村の実習生・実習指導者・教員が合同で、学生が経験した訪問事例の情報を共有し、家庭訪問の評価、支援技術について学生の疑問点を整理、考察させた。健康教育のテーマは、実習指導者が紹介した中から学生が選定し、学生１～３名で、地域の健診・予防接種会場、サークル活動などの参加住民を対象に実施させた。

２）市町村実習における家庭訪問、健康教育の実施状況

（１） 家庭訪問：平成17年度に学生が実施した家庭訪問の対象事例の種別（図２）は成人が多く、主に、現在市町村が力を入れている生活習慣病の対象者への訪問であった。母子では従来から行われている新生児訪問のほか、虐待予防、若年妊婦なども対象となっていた。

（２） 健康教育：学生が実施した健康教育のテーマ（表３）は、家庭訪問と同様、生活習慣病関連のトピックが多かった。

４．実習プログラムの評価

１）実習記録における「学生の学び」

実習レポート「地域保健看護実習で学んだこと」の記

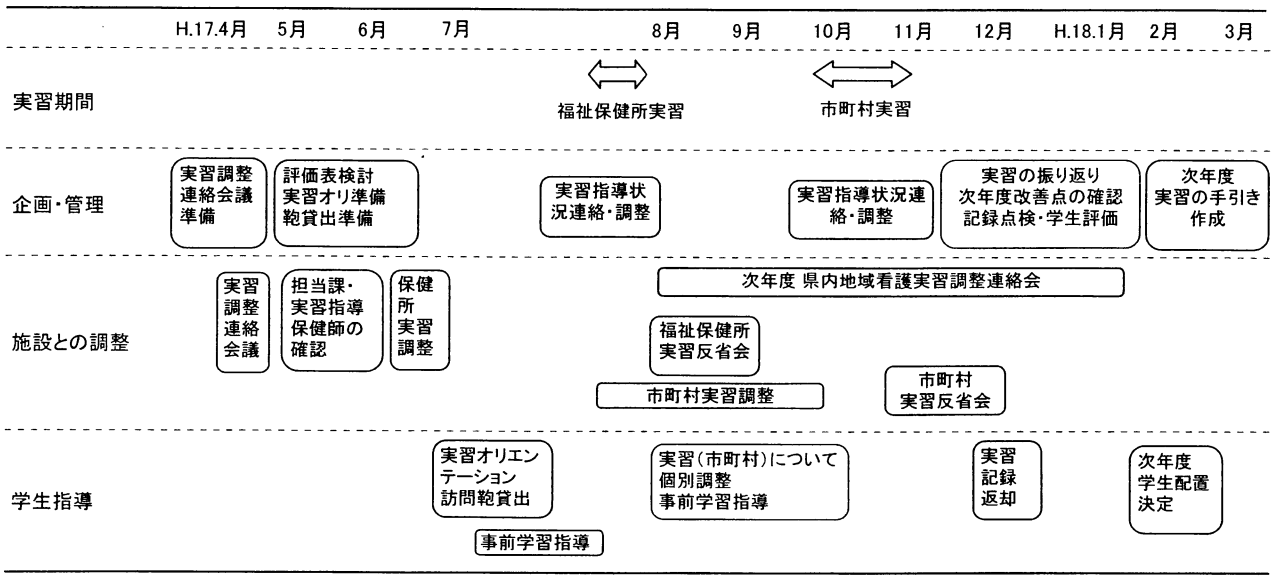

図１　年間実習関連業務（平成17年度）

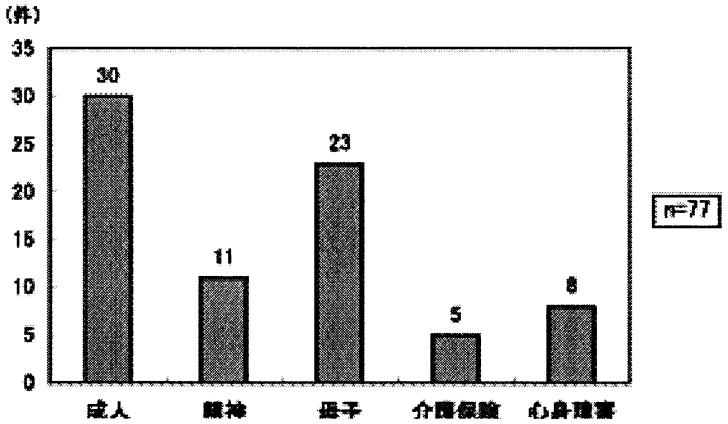

図２　実習における家庭訪問対象事例種別（平成17年度）

表３　実習で実施した健康教育テーマ（平成17年度）

	健康教育テーマ	学生数(n=77)
生活習慣病関連	高血圧予防	7
	骨粗鬆症	3
	高脂血症	1
	糖尿病	2
	内臓脂肪型肥満	2
	脳血管疾患	3
	メタボリックシンドローム	4
	ウォーキング	1
	運動	1
	栄養	1
	喫煙・飲酒	1
	休養の必要性	1
	禁煙	1
	肥満予防	10
	小　計	38
母子保健関連	妊娠	3
	子どもの事故予防	6
	子どもの発達段階と遊び	2
	児童虐待	1
	離乳食	3
	乳児の沐浴と全身観察	2
	予防接種	3
	乳幼児の口腔ケア	1
	小　計	21
高齢者の保健ほか	痴呆予防	4
	転倒予防	8
	白内障	1
	フットケア	2
	口腔ケア	3
	小　計	18

述のうち実習において学習した内容について抽出し、実習目標に基づいて分類し、学生ひとりあたりの平均学び数を算出した（表４）。

学んだことの記述が多い項目は「保健所保健師の役割と業務」「市町村での具体的なヘルスケアの提供」であった。これらは実習中の見学あるいは実践を通して具体的な理解が得やすかったものと考えられた。逆に、学んだことの記述が最も少ない項目は市町村実習における「住民の自主活動の理解」で、実際に体験する機会が少なかったり、保健事業の中でヘルスボランティアに接する機会を得ても、その活動について充分な認識に至らなかったりしたことなどによると考えられた。

また「福祉保健所の役割の理解」については、主に事前学習と実習指導者の説明からの学習を学生に期待したが、事前に学生に配布した「福祉保健所活動概況」のデータや実習指導者の説明が学習課題の具体的な理解につながりにくい現状を把握できた。

２）学生の自己評価と担当教員による評価

学生の自己評価と担当教員による学生評価を各項目５点満点で実施した（表４）。

（１）　福祉保健所実習の学生自己評価と実習担当教員による評価

「保健所保健師の役割・業務の役割の理解」の学生評価の平均点は、教員の平均点と大差はなかった。しかし、個人・家族・集団に対する保健師の活動を「看護」として見ることができなかった、という学生の記録もあった。学生が保健師による看護について理解を深めることができなかったのは、家庭訪問等の機会や保健師が保健指導の対象に接する場面に出会う機会が少ないこと、病棟実習で経験する看護師のケアと保健所保健師のケアとのギャップ等によると考えられた。

「地域ケア体制の理解」については、学生の平均学び数が少ないのと同様、実習期間内に地域ケア会議等への参加による体験ができない学生がいること等によると考

表４　地域保健看護実習における学生の学びと評価（平成17年度）

実習施設	実　習　目　標	学生の平均学び数	学生の平均評価点	教員の平均評価点
福祉保健所	1．福祉保健所の役割・組織・業務の理解	0.5	4.1	4.1
	2．保健所保健師の役割・業務の理解	3.3	4.0	4.1
	3．地域ケア体制の理解	0.5	4.2	3.9
市町村	1．市町村の特徴と保健福祉行政の理解	0.3	4.1	4.1
	2．ヘルスケアの提供方法の理解	2.8	4.4	4.1
	3．住民の主体的活動の理解	0.2	3.7	3.9
	4．関係機関との連携のあり方の理解	0.4	3.7	3.6
	5．市町村保健福祉行政の役割及び看護の役割と機能の理解	0.4	4.0	4.1

えられた。

（２）　市町村実習の学生自己評価と実習担当教員による評価

市町村実習の学生自己評価では、個人・家族及び地域の健康問題の解決・健康増進に向けた「ヘルスケアの提供方法の理解」で、平均学び数と同様に評価が高く、一方で、健康問題の解決やQOLの向上をめざした「住民の主体的活動の理解」、ヘルスケアの充実、質向上を図るための「関係機関等との連携のあり方の理解」で低い傾向を示した。

「ヘルスケア提供方法の理解」の評価点が高かったのは、全学生が家庭訪問と健康教育を実施したことによって理解と達成感が高まったことによると考えられた。

しかし、学生の自己評価に比べて実習担当教員の評価が若干低いのは、教員は、ヘルスケア提供に関して、学生は相手を理解する視野が狭いと評価したことよると考えられた。たとえば、学生の中には病棟実習で得た知識をよりどころに、「これが健康に悪いと教えたい」「生活を改善して欲しい」と対象者に性急な介入を考える傾向がみられ、教員が学生の体験事例を通して、まず住民の声に耳を傾け、相手の生き方、考え方を理解するという、本来看護職が持つべき姿勢の大切さを伝える場面がしばしばあった。

５．実習施設へのフィードバック

実習終了後、担当教員は実習施設に学生の記録を持参して学習成果の報告をし、実習に対する学生の意見、教員間の反省事項なども実習施設にフィードバックした。その際、実習指導者側の意見を再確認して、教員間で共有し検討し、次年度実習指導計画に反映させた。

Ⅳ　考察　ー本学地域保健看護実習の今後の課題ー

１．実習施設の確保の難しさと対策

実習施設の確保の難しさは、日本公衆衛生学会公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会による全国調査結果報告（平成12～14年）も地域看護実習を困難にしている大きな要因に挙げているが[1]、本県も、とりわけ市町村において実習受け入れが年々困難になっている。それだけに、今後は「実習生が来てよかった。」と実習指導者が感じる実習内容をさらに工夫することが重要である。また最近、地域包括支援センター等介護関連分野や国保・衛生部門の連携の推進に関する保健師の新しい役割への期待、本県保健師等人材確保支援計画に基づく離島等小規模町村における保健師配置の現状等を視野に入れて、実習施設の拡大を図るとともに、実習現場の保健師業務の変化に対応した実習目標および実習プログラムの見直しを続ける必要がある。

２．実習内容の精選と指導方法の検討

現在、わが国の看護教育においては、学ぶべき内容に比して実習期間が少ないと言われ[7]、実習内容の精選と指導方法について、前述の検討委員会は、実習を受ける現場の要望に応えるための課題として①こんな学生を育てたいという到達目標を明確にすること、②何を学ばせたいか、実習での課題を明確化、具体化すること、③『保健師になりたい』という気持ち、アイデンティティを育てることを挙げている[1]。本学地域保健看護実習においても、学生の学びが少ないプログラムに関しては、実習目標および内容を学生や実習指導者に対してさらにわかりやすく示す必要がある。

また、本学の地域保健看護実習は健康教育、事例検討会を必修としており、他大学８～11）に比して学生が実践的に学ぶ機会が多いことを、実習プログラムが充実している点として評価できる。しかし、一方で、それが学生への負担となる可能性にも配慮が必要である。学生の力量を勘案し、限られた実習体験から地域保健看護技法

の習得を図る指導方法を、実習施設の実習指導者とともに確かめるよう努めたい。

３．地域保健看護への関心を引き出す関わり方

わが国の保健師１年教育課程は、看護師免許を取得した学生だけが入学している。しかし、看護系大学では地域保健看護に興味を持って入学する学生ばかりではなく、卒業時に保健師として就職する者は１割に満たない[12]。このような傾向は本学の学生にもみられ、実習指導者から学生の実習意欲の問題として指摘されている。学生の学習意欲をどのように引き出すか、教員も実習指導者も必死であり、地域で生活する人々の健康問題と地域のヘルスシステムの理解は、統合看護教育課程で学ぶ全ての学生に期待される不可欠な能力の一つであることを強調している。地域保健看護実習での学びが、将来多様な機関で活躍する学生の看護実践に意義をもたらすためには、学生の主体的な学びを促す指導方法を工夫しなければならない。

４．カリキュラム改善への課題

現在、本学の地域保健看護実習は福祉保健所・市町村を含めた３単位の実習を、４年次前期と後期の学期に分けて実施しているが、このことは学生の集中力を低下させる要因の一つであろう。また、学生からは就職活動が本格化する前に本実習を終了することによって、将来の進路を見極めたいという意見もある。これらは、主に本実習時期の改善課題である。さらに、今日の地域看護活動の拠点は福祉保健所と市町村保健部門以外の分野で急速に拡大していることに対応できる本学カリキュラムの見直しも検討課題であると考えられる。

Ⅴ　結語

本学平成17年度地域保健看護学実習を本学地域保健看護講義科目と実習内容、教員の実習指導体制、実習プログラムの展開と評価から検討した結果、実習場所の確保、実習内容の精選と実習方法の検討、学生の地域保健看護への関心を引き出す関わり方、本学のカリキュラム改善に関する課題を明らかにすることができた。これらの課題の解決を図る努力を続けたい。

文献

1）公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会活動報告ワークショップ「公衆衛生看護における人材育成をめぐって―保健師教育は4年制大学でどこまで可能か―」，日本公衆衛生雑誌，51（1）：48-54，2004.

2）全国保健師教育機関協議会　保健師教育課程検討会：全国保健師教育機関協議会が作成した保健師教育課程試案，保健師ジャーナル，62（7）：558-563，2006.

3）平野かよ子，他：看護系大学，短大専攻科，専修学校別の保健師養成について　教員と学生の保健師活動の認識等の実態調査，日本公衆衛生雑誌，52（8）：746-754，2003.

4）公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会活動報告「保健師のコアカリキュラムについて」中間報告，日本公衆衛生雑誌，52（8）：756-764，2003.

5）宮崎美砂子，他：保健師学生に対する臨地実習指導の現状調査と大学・実習施設の協働に向けた課題，保健師ジャーナル，62（5）：394-401，2006.

6）藤丸知子，他：地域看護学実習の評価と今後の課題学生の実習自己評価と到達度の分析から，保健師ジャーナル，62（6）：494-500，2006.

7）菊地令子：看護基礎教育の充実を目指して，看護，58（9）：50-55，2006.

8）関美雪，宮地文子，中崎啓子，佐々木明子，松村ちづか，服部真理子，甲田望：保健所・保健センター実習における学生の学び，埼玉県立大学紀要，4：151-154，2002.

9）金川克子：調査報告から見えてくる「いまどき」の地域看護学教育，保健婦雑誌，59（12）：1116-1120，2003.

10）上野昌江，津村智恵子：大学での地域看護実習の現状と課題，保健婦雑誌，59（12）：1138-1144，2003.

11）斉藤茂子，小田美紀子，落合のり子：地域の健康課題を中心とした地域看護実習の有効性，日本地域看護学会誌，8（1）：53-58，2005.

12）日本看護協会出版会 編：平成17年看護関係統計資料集，日本看護協会出版会，2006.

Journal of Okinawa Prefectural College of Nursing No.8 March 2007.

The Challenges to the Method of Community Health Nursing Practice — At Okinawa Prefectural College of Nursing in 2005 —

Masako WATANABE R.N., P.H.N., B.N.,[1] Shinobu MAKIUCHI, R.N., P.H.N., M.N.,,[1]
Michiko KAWASAKI, R.N., P.H.N., M.N.,[1] Fumiko MIYAJI, R.N., P.H.N., Ph.D.[1]

Abstract

To search for more effective guiding method of the practice in the community health nursing in our college, the contents of practice in 2005 and to improvement were examined by analysis of syllabus, the practice outline, the practice records of students, and evaluation by students and faculty.
The lectures of community health nursing were carried out gradually and intensively, and the practice was executed for the senior students who had completed the lectures. It was planned giving priority to undestanding the role of the PHN in practice at public health centers and aquisition health guidance techniques in the commnity. Then, from analysis of 'students learning' in the practice records, it was easy for the students to understand concretely through the visits or clinical practice in the commnity. On the other hand, achievement goal was low when students' actual experiences were not enough, and/or when students couldn't recognize it even if they did. Moreover, in the practice evaluation of the students and faculty the evaluation was low with few chances of practice.
As a result, challenges to improvement of the practices was clarified, such as securing of practice places, careful selection of contents and methods, guidance to draw out students' concern, and improvement of curriculum of our college.

Key Wards : Practice of community health nursing, Education of community health nursing, Guidance methods in practice, Evaluation of practice

1) Okinawa Prefectural College of Nursing